

## I. 平成29年度 事業及び収支決算概要

平成29年度は振り返ってみますと、国内の明るいニュースとして、中学生でプロ入りした将棋最年少棋士の藤井聡太4段が6月26日に平成28年12月デビュー以来29連勝の新記録、そして平成30年2月1日に5段に、2月17日には6段に昇段するという中学生での初の快挙を成し遂げました。また、平昌冬季オリンピックではフィギュアスケートの羽生結弦選手ハニウ ユヅルの連続金メダルはじめ多くの若手選手が活躍し、過去最多13個のメダルを獲得しました。

米国第45代大統領に就任（2017. 1. 20）したドナルド・トランプの米国の国益を徹底的に追求する「米国第一」に、国際協調の流れが覆され、世界の多くの国が大きな衝撃を受けました。日本経済は11月に第4次安倍内閣がデフレからの早期脱却と物価安定の下での持続的な経済成長の実現に努力し、多くの企業で経常利益の順調な伸びが見られました。当財団の保有株式もその好影響によって、増配の恩恵を受け、投資信託の配当金の減少を補うことができました。

さて、当財団においては平成30年2月2日に内閣府による立ち入り検査があり、前回の立ち入り検査（平成28年3月7日）の指摘事項について適切に対応されていることが確認されました。今回の検査での主な指摘は「遊休財産保有限度額の超過の解消」で、この解消施策として、17,000千円を特定資産に繰り入れることとし、ライオン株式8,000株を3月初旬に購入いたしました。

また、正味財産増減計算書において、有価証券売却益や投資信託評価損の金額などを経常外増減の部の法人会計欄に記載しておりましたが、今回内閣府の指導により公益目的事業欄に振替いたしました。

上記の結果、一般正味財産期末残高は前年より約2,938千円増加し、370,368千円となりました。

**事業概要：**助成事業において、今年度より申請書類内容の審査表に基づき、いっそうの客観的選考のため研究助成申請者の書類内容を①申請者の資格などの適切性、②研究内容の適切性、③助成金の用途の適切性、④推薦書の内容などを考慮しての総合評価、の4項目について採点を行う第1次審査を実施し、その結果を基に選考委員会において助成者を選定することができ、大変有効に活用できました。今年度は全ての助成部門で約2倍の応募件数がありました。この評価法の実施の活用によって所定の助成件数の27件の選定が円滑に行われました。しかし、当年度も海外歯科保健医療活動部門で活動を予定しておりました東ティモールでの政情不安によって現地活動の延期要請があり、次年度に活動延期となりました。

今年度もまた、各研究助成金受給者・団体より報告書を提出していただき、小冊子に纏め関係者及び関係機関等に配布致します。

**決算の概要：**正味財産増減計算書において、経常収益では保有株式の配当金の増加などにより、昨年度より1,628千円増の15,574千円の収益となりました。この収益のうち62.6%、9,742千円は公益目的事業で、37.4%、5,832千円は法人会計です。また、経常収支では2,938千円のプラスですが、公益目的事業の収支は、臨時事務局員費用の計上などにより113千円のマイナスとなりました。

一方、法人会計関係では、経費の効率化と削減に努めましたが、収支のプラスに大きく寄与したのは株式配当金の増加で、3,051千円のプラスとなりました。

因みに経常費用における公益比率は78.0%です。

以上の結果、一般正味財産期末残高は、370,368千円となりました。